

主題：ローマ人への手紙第5章から第8章——聖書の核心

メッセージ 2

ローマ第8章——聖書全体の中心点であり、宇宙の中心である

聖書：ローマ7:15—8:2, 10, 6, 11, 28-29. 12:1-2

I. 勝利者であるためのかぎは、死にもの狂いに追い求める者のための章であるローマ第8章にある命の霊の法則です——7:24—8:2, 28-29. 詩105:4 :

- A. ローマ第7章は「肉の中に」ある経験ですが、ローマ第8章は「霊の中に」ある（神聖な霊がわたしたちの人の霊の中に住んでおり、これら二つの霊が共にミングリングされて一つ霊となっている）経験です——4, 9-10, 16節. I コリント6:17. II テモテ4:22。
- B. ローマ第8章にある命の霊の法則は、第12章にあるキリストのからだの実際の中にわたしたちを導き入れます。この法則は、わたしたちがからだの中に生き、またからだのために生きる時、わたしたちの内活動します——8:2, 28-29. 12:1-2, 11. ピリピ1:19。

II. 内住のキリストを命の霊の法則として経験するためには、ローマ第7章と第8章の三つの命と四つの法則を見る必要があります :

- A. 創造された人の命と善の法則は、わたしたちの魂の中にあります。この法則は天然の人の命から、すなわち、人自身から出ています——7:21-23. 創1:31. 伝7:29。
- B. 悪のサタンの命と罪と死の法則は、わたしたちの肉の中にあります。この法則はサタンから、すなわち、信者の肉の中に住んでいる罪から出ています——ローマ6:6. 7:15-20, 23-24. I ヨハネ3:10. ヨハネ8:44. マタイ13:38. 23:33. 3:7. ローマ3:13。
- C. 非受造の神聖な命と命の霊の法則は、わたしたちの人の霊の中にあります。この法則は神から、すなわち、人の霊の中に住んでいるその霊から出ています——8:2, 9-10, 16. ヨハネ1:4. 10:10後半. 14:6前半. I コリント15:45後半。
- D. この三者と三つの法則が、今や信者の中にあります。それは、この三者（神、人、サタン）がエデンの園にいたのと同様です（創第3章）。
- E. 信者の中のこの三つの法則に加えて、神の律法（法則）が信者の外にあります——ローマ7:22, 25。

III. 聖書全体は宝石をちりばめた指輪のようです。ローマ書は指輪の宝石であり、第8章は宝石が放つ輝きのようです。ローマ第8章の主題は命の霊の法則です :

- A. あらゆる命には法則があり、法則でさえあります。神の命は最高の命であり、この命の法則は最高の法則です——参照、ヨハネ1:4-5. 12:24. 14:6前半. 10:10後半. I コリント15:45後半。
- B. 三一の神は、肉体と成ること、十字架、復活、昇天の手順を経過し、命の霊の法則となって、わたしたちの霊の中に、「科学的な」法則、自動的な原則として設置さ

- れました。これは、神のエコノミーにおける最大の発見、さらには最大の回復の一つです——ローマ8:2-3, 10-11, 34, 16。
- C. 命の霊（複合の霊）の法則は、わたしたちを罪と死の法則から解放し、わたしたちのために罪と死の問題を解決します——2節. ピリピ1:19。
- D. 命の霊の法則は、神聖な命の自然な力です。それは神聖な命の自然な特性、固有の、自動的な機能です——ローマ8:2. ピリピ2:13. エゼキエル36:26-27. 箴30:18-19. イザヤ40:28-31. ヘブル12:2前半. ピリピ4:13. コロサイ1:28-29。
- E. わたしたちの霊の中に設置された命を与える霊である、手順を経た三一の神は、電気にたとえてもよいでしょう。わたしたちの内側で、神聖な「電気」の法則としての神の活動は、この法則に「スイッチを入れる」というわたしたちの協力を必要としています——ピリピ2:12-13。
- F. わたしたちが主に触れることを続け、彼との接触の中にとどまるとき、命の霊の法則は自動的に、自然に、何の努力もなく働いて、命である神をわたしたちの存在の中へと分与し、罪と死の法則に打ち勝ちます——ローマ8:10, 6, 11:
1. わたしたちは自分自身のもがきと奮闘をやめる必要があります——ガラテヤ2:20前半. ローマ7:15-20:
 - a. 罪が法則であり、わたしたちの意志がこの法則に決して打ち勝つことができないことを見たことがないなら、わたしたちはローマ第7章の罫の中に陥り、第8章に決して到達しないでしょう。
 - b. パウロは何度も欲しましたが、その結果は失敗の繰り返しにすぎませんでした。人が行ない得る最上のことは、決意することです——7:18。
 - c. 罪はわたしたちの内側で潜伏しているとき、単に罪ですが、わたしたちが善を行なおうと欲することによってわたしたちの中で起き上がるとき、「悪」となります——「わたしは、善を行なおうと欲しているわたしに、悪が共にあるという法則を見いだします」——21節。
 - d. わたしたちは欲するのではなく、思いを霊に付け、霊にしたがって歩き、イエス以外のあらゆるものから目を離すべきです——8:6, 4. ピリピ2:13. ヘブル12:1-2。
 2. わたしたちは霊の中で生きるために、時間を費やして主を見つめ、祈ってイエスと交わり、彼の御顔の表情の中に浴し、彼の美しさで浸透され、彼の卓越性を輝かし出す必要があります——詩27:8. 105:4. 詩歌568番。
 3. わたしたちは祈りによって、また依存する霊を持ち、命の主また働きの主との交わりを維持することによって、内住する、設置された、自動的な、内側で活動する神と協力しなければなりません——I テサロニケ5:17. エペソ6:17-18。
 4. わたしたちは霊の中の命の感覚を顧慮して、命の霊の法則の活動のために、神聖な命の流れである命の交わりの中にとどまる必要があります——ローマ8:6, 16. I ヨハネ1:2-3, 6-7. マタイ2:15-16:
 - a. 命の感覚は、消極的な面で、死の感覚——弱さ、むなしさ、不快、不安、圧迫、渇き、暗やみ、痛みなどです——ローマ8:6前半。
 - b. 命の感覚は、積極的な面で、命と平安の感覚——強さ、満足、平安、安息、解

放、活発、潤い、明るさ、心地よさなどです——6節後半。

IV. ローマ第8章は、聖書全体の中心点であり、宇宙の中心です。ですから、わたしたちがローマ第8章を経験しているなら、わたしたちは宇宙の中心にいます：

- A. 永遠の過去において、神はご自身の贖われた民の中へと入って彼らの命となり、彼らをご自身の団体の表現とすることを計画されました。これが神のエコノミーの中心点です——エペソ1:3-5。
- B. 人は神の創造の中心です。なぜなら、神の意図は人を通して表現されることであるからです。人が神の表現となることができるのは、神が人の中へと入って来て人の命、また内容となり、人を神と一にして、人が神によって生き、さらには神を生かし出すしかありません。こうして神は人の内側から表現されます。
- C. ゼカリヤ第12章1節は言います、「天を延べ、地の基を据え、人の霊をその中に形づくられたエホバはこう告げられる」：
 - 1. 人の霊は天と地と同格です。なぜなら、わたしたちの霊は神が住むことを願う所であるからです——エペソ2:22. 参照、Ⅱテモテ4:22。
 - 2. 天は地のためであり、地は人のためであり、人は神によって霊を持つ者に創造されました。それは人が神と接触し、神を受け入れ、神を礼拝し、神を生き、神のために神の定められた御旨を完成し、神と一になるためです。
- D. 宇宙における中心の焦点とは、手順を経た三一の神がわたしたちの中へと入って来て、今やわたしたちの中に住んでいるということです。これは最大の奇跡です。宇宙においてこのことよりも重要なことはあり得ません——イザヤ66:1-2. ヨハネ14:23. 15:4。
- E. 三一の神がわたしたちに内住し、わたしたちと一であるので、わたしたちはみな喜びに満ちているべきです。彼はわたしたちの命であり、わたしたちのパーソンです。彼はわたしたちをご自身のホームとしつつあります——エペソ3:14-17。
- F. ローマ第8章における内住の霊は三一の神です：
 - 1. 「神の霊」という表現において、「霊」と「神」は同格であり、その霊と神が一であることを示しています——9節。
 - 2. 同様に、ローマ第8章における「キリストの霊」、「イエスを死人の中から復活させた方の霊」、「命の霊」は、その霊がキリスト、復活させる方、命であることを示しています。こういうわけで、その霊がわたしたちに内住しているので、三一の神の三はみな、命としてわたしたちの中におられるのです——9, 11, 2節。
 - 3. ローマ第8章におけるその霊は、三一の神の究極的完成また適用としてのすべてを含む霊です。その霊は、わたしたちに届き、適用される三一の神です。
 - 4. 三一の神はすべてを含む霊としてわたしたちの内側にいます。それはわたしたちが彼をわたしたちの命またパーソンとすることによって、経験し、享受するためです。わたしたちは三一の神の器です——Ⅱコリント4:7。

V. ローマ第8章が啓示するのは、手順を経た三一の神が命の霊の法則として、信者たちの生活のために彼らに神聖な命を与えるということです——2, 10, 6, 11, 28-29節：

- A. わたしたちが主の中へと信じることによって彼を受け入れたとき、彼は命の霊の法則として機能して、神の神聖な非受造の命（ギリシャ語、ゾーエ zoe）であるご自

身をわたしたちの霊の中へと分与しました。わたしたちはみな、わたしたちの存在の少なくとも一部分である霊がゾーエであるという大いなる啓示を見る必要があります。わたしたちの思いを霊に付けるとき、わたしたちの魂を代表する思いがゾーエとなります。また、ゾーエは命の霊の法則の活動を通して、わたしたちの死ぬべき体にも分け与えられることが可能です。このようにして、わたしたちは三部分から成る存在すべてにおいてゾーエの人となって、ゾーエの都である新しいエルサレムとなります——啓21:6. 22:1-2, 7, 14。

B. 神の願いと目標とは、わたしたちが神聖な命によって生き、他の人たちに命を供給して召会を建造するという事です。この命はキリスト・イエスの中にあり、それは命の霊の法則の命です——ローマ8:2. II コリント3:6. I ヨハネ5:16。

C. わたしたちは、命の霊の法則によって信者として生活する道を見る必要があります。わたしたちは命の霊の法則によって制御され、指示されて、真の、正常なクリスチャン生活を経験しなければなりません——ローマ8:2:

1. 神のエコノミーと永遠の定められた御旨によれば、神がご自身の救いにおいて行ないたいことは、ご自身をわたしたちの命としてわたしたち贖われた民の中へと造り込むことです。ご自身を命としてわたしたちの中へと造り込むという神の願いが、聖書の中心点です。
2. わたしたちが弱く、命に欠けているのは、霊的な呼吸に不足しているからです。霊的に呼吸することは、主の御名を呼び求めることです——哀3:55-56. 詩歌210番、2節。
3. わたしたちが絶えずその霊を命として吸い込み、彼にわたしたちの存在のすべてへと広がっていただくとき、キリストがますます多くわたしたちの中へと加えられます。これはわたしたちの存在の中で主観的な神を所有し、経験し、享受することです。
4. こうして神がわたしたちの存在の中へと加えられるとき、わたしたちは命の要素を受けます。それはわたしたちを成長させて、キリストのからだを建造します——コロサイ2:19。
5. わたしたちがこの命の要素をもって成長しつつあるとき、命の霊の法則はわたしたちの中で自動的に働き、わたしたちをキリストのかたちへと形作り、同形化します。キリストのからだ、キリストの豊満、新しい人、神と人との相互の住まいは、わたしたちがこの命を経験することから来ます——ローマ8:29。

VI. わたしたちが命の霊の自動的な法則として内住の霊を享受することは、キリストのからだの中にあり、キリストのからだのためであって、この享受には目標があります。それは、わたしたちを神格においてではなく、命、性質、表現において神と同じにし、また、あらゆる種類の機能をもって、わたしたちをキリストのからだの肢体として構成することです——2, 28-29節. 12:1-2. ピリピ1:19. エペソ4:11-12, 16。

VII. 究極的に、この命はキリストの花嫁を用意します。それによって、主が戻って来て、わたしたちは次の時代に導き入れられます。こういうわけで、聖書と宇宙の中心の焦点はローマ第8章にあります。